

議会だより

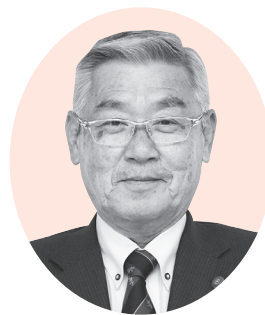


子どもたちの発表会（苗羽幼稚園）

- 審 議 議 案 10月臨時会・12月定例会について… 2 ～ 4
- 一 般 質 問 11人の議員が質問 …………… 4 ～12
- 視察研修報告 …………… 13
- 住民の声・まちの力 …………… 14

新春の

ごあいさつ



小豆島町議会
議長 谷 康 男

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
日頃から議会に對しまして温かいご理解
とご協力を頂き、心から厚くお礼申し上げ
ます。

私たち議員は「町民目線に立った議会の
運営」を基本に、皆様の期待に応え、積極
的に議会活動を進めてまいりますので、
今年もどうぞよろしくお願いいたします。

藤本 傳夫 三木 卓 大下 淳
森 弘章 藤井 孝博 中松 和彦
大川 新也 柴田 初子 森 崇
森口 久士 安井 信之 鍋谷真由美
浜口 勇

12 月 定例会

12月定例会を12月18日・19日の2日間開催しました。
専決処分の承認1件をはじめ、条例案件6件、契約案件
1件、その他案件1件、予算案件2件が提案されたほか、
選挙1件、発議1件がありました。条例案件4件につい
ては総務建設常任委員会に付託し慎重に審査を行いまし
た。議案は全て原案通り可決しました。
また、11人の議員から一般質問がありました。

審議した主な議案

補正予算

一般会計（第5号）
追加補正予算額
3983万円

（総務費）

四国新聞広告料

72万円

四国新聞わが町未来
会議への広告料です。

Qどのような内容でど
ういった効果が期待で
きるのか。

A 2月25日から29日に
かけて、町内を5つの
地区に分けて、それぞ
れの地域で頑張る団体
や個人を取り上げる予
定である。29日は一堂
に集めて島の未来に向
けた討論会を実施する
ます。

医療機器等

整備事業負担金

256万円

小豆島中央病院の3
次元画像解析システム
更新に対する負担金で
す。

（商工費）

土地購入費

126万円

新品種オリーブの育
苗のため、オリーブ公
園内（風車北側）の民
有地購入費です。



無線
防災施設

（民生費）

子ども医療費

242万円

上半期の医療費が想
定より多かったこと
と、インフルエンザの
流行に備え増額補正し
ます。



（土木費）

道路補修工事費

2160万円

水道管の布設替等
を行った際の路面復旧工
事費を増額補正します。

道路改良舗装工事費

1839万円

県の補助金増額に伴
い増額補正します。

（教育費）

草壁公民館

屋根等工事費

237万円

草壁公民館の改修工
事で、アスベストの使
用が判明したため、処
理費を増額補正します。

国民健康保険事業特別
会計（第1号）
追加補正予算額

委託料

88万円

税制改正に伴うシス
テム改修委託料です。

条例の制定

会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例

国の法令整備に伴い制定します。非正規職員（嘱託職員・臨時職員）が会計年度任用職員に移行します。施行日は4月1日からです。

役場組織を再編します。施行日は5月1日からです。

現行から3課減となります。再編の内容は次の通りです。

新設する課

- ・住民生活課
- 住民課の業務
- 人権啓発・男女共同参画に関する業務

環境衛生課の住宅関連以外の業務

住まい政策課

- ・住まいに関する業務
- 移住促進業務
- 環境衛生課の住宅関連の業務

こども教育課

- ・学校教育課の業務
- 子育て共育課の業務
- 生涯学習課
- 社会教育課の業務

廃止する課

- ・住民課
- 人権対策課
- 社会教育課
- 環境衛生課
- 学校教育課
- 子育て共育課
- 介護サービス課
- 介護保険施設へ編入

条例の改正

行政組織条例

Q部制が廃止されると課間のつながりが薄れるのではないかと懸念されています。

A連携が必要な時は参事に対応する。課の取りまとめは副町長や、統括課長が行う。部制をなくしたからといっても連携が取れなくなるとは思わない。

地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律に伴う関係条例の整備に関する条例

国の法令整備に伴い関連する条例について改正します。施行日は4月1日からです。

小豆島オリーブ公園条例

オリベックスうちのみについて、経年劣化があるので部分的なリニューアル、フロアの張替えを行います。

また、タオルやオゾン脱臭機を新たに備え付けるなど、施設の充実を図るため、繁忙期の上限額について値上げするものです。



オリベックスうちのみ

印鑑条例

国の法令改正に伴い改正しました。成年被後見人でも、意思能力を有する人は印鑑登録が出来るようになります。

手数料条例

狂犬病予防注射手数料について改正します。

Q県獣医師会から値上げの依頼があったというが、なぜ手数料が上がるのか。

A消費税3%時代に現在の価格を設定した。現在10%に上がっており、改めて単価の積み上げをしたためである。

る。県下すべての市町に通知していると聞いている。

契約

- 工事名
- 一般廃棄物最終処分場整備 貯留堰堤工事
- 相手方
- 高尾石材(株)
- 契約金額

8162万円

最終処分場の貯留堰堤整備を行います。

その他

辺地総合整備計画

新たに追加された計画は次のとおりです。

二生辺地
消防団可搬ポンプ更新

専決承認

損害賠償の額を定め、和解することについて

平成30年11月12日に寒震溪で発生した交通事故に対する損害賠償の額について承認しました。

発議

所得税法第56条及び第57条の見直しを求める意見書

所得税法第56条の規定により、配偶者その他の家族が事業に従事した場合は同法57条の特例を活用しなければならず、家族従業者の社会的、経済的な自立が世界の主要国に比べて遅れているため、その見直しを行うよう、意見書の提出をします。

提出先

内閣総理大臣
衆議院議長
参議院議長
財務大臣

選挙

伝法川防災溜池事業
組合議会議員
当選人 井口 平治

10月臨時会

田浦棧橋整備工事費

2575万円

橘漁港にある棧橋を

第4回臨時会を10月25日に開催しました。契約案件2件をはじめ、その他案件1件、予算案件1件が提案されたほか、報告4件がありました。議案はすべて原案通り可決しました。

田浦へ移設するための設計委託料及び工事費です。

契約

工事請負契約

●工事名

植松都市下水路2号雨水幹線新設工事（その8）

●相手方

秋田工業（株）

●契約金額

7062万円

●工事名

片城ポンプ場電気設備更新工事（その2）

●相手方

東芝インフラシステムズ（株）

●契約金額

6270万円

その他

損害賠償の額の決定について

平成30年に介護老人保健施設うちのみで発生した事故に対する損害賠償の額について決定しました。

田浦棧橋整備工事

設計委託料

506万円

（農林水産業費）

ナラ枯れ防除委託料

629万円

安田、橘、岩谷地区において発生したナラ枯れ対策のための委託料です。

（商工費）

田浦棧橋整備工事

設計委託料

506万円

12月定例会 一般質問

森 崇（9P）

- 移動販売車「まごの手」の実態と将来像は
- 戦争体験記の必要性は
- 猪急増の対策は

浜口 勇（5P）

- 長時間停電への備えを

安井 信之（10P）

- 後期高齢者医療制度における人間ドックは
- 異常気象に対する減災対策を
- 小学校再編の議論のスピードアップを

藤井 孝博（5P）

- 各自治会主催の「防災避難訓練」の見直しを

森口 久士（6P）

- 人・農地プランの状況は

鍋谷真由美（11P）

- 認知症支援施策の充実を
- 高齢者等へのごみ出し支援を
- 地球温暖化対策の取り組みは

柴田 初子（6P）

- 寒霞溪の環境保全は

大川 新也（12P）

- 神懸線季節運休の廃止を
- リサイクル関連事業の計画は
- スポーツ事業の新たな取り組みを

中松 和彦（7P）

- 独居老人等の世帯への見守り・支援は

三木 卓（7P）

- サン・オリーブ温泉の継続運営は正しいのか？
正しくないのか？

森 弘章（8P）

- 増加一途の荒廃空き家、空き地の今後の対応、対策は
- 町内、歩道のない地域の国道436号、住民の安全対策は
- 危険で不便な未整備バス停の調査、対応を





浜口 勇 議員

長時間停電への備えを

町「中国電力(株)と連携を密にとっていく」

質問 令和元年秋、関東と東北地方を通過した台風の強風によって送電用鉄塔と電柱が倒壊し停電が長時間続き、千葉県南部の町では復旧に1カ月もかかった。

現代では電気のない生活は考えられない。スイッチを入れると電気器具が作動するのが当たり前になっている。毎日、空気のような存在になっている。

小豆島への電力は玉野市からの海底ケーブルと、井島、豊島、小豆島の鉄塔の送電線によって送電されている。これが災害や事故で送電がストップした場合、長時間の停電が避けられない。これに對する備えが必要である方針。

答弁 北海道全体が2日間停電したブラックアウトやこの度の千葉県の送電線切断による長期停電となった。現代社会では電気のない日常生活は成り立たないと感じた。

長期停電で全町民が電気のない不便な生活を強いられるのは避けられない。町では防災拠点となる新庁舎には3日間連続運転できる非常用発電機を設置し、避難所となる6公民館と3小学校には太陽光発電と蓄電池を設置、内海浄水場には非常用発電設備を導入する方針。

8月の島内消費電力のピークは3万5千kwで火力発電所でしか発電できない。建設と運転に多額の費用が必要で難しいと思う。

停電の早期復旧のため今後、中国電力(株)と連携を密にとっていく。



小豆島への送電線



藤井 孝博 議員

各自治会主催の「防災避難訓練」の見直しを

町「各種防災に関する意識・知識・技能を有した地域のリーダー育成を図る」

質問 近年、日本列島各地で予想外・想定外と過去に例のない悲惨な災害が起きており、被災者の方々から避難訓練や早期避難の重要性を問われている。

今、各地で住民の自主訓練を促す動きなど、さまざまな対応策が講じられている中、高齢化が急速に進んでいる「災害弱者の町」本町での、各自治会主催の避難訓練の実施状況は、例年3割から5割程度である。

また、防災訓練内容においても各自治会任せの現状であり、今こそ行政が強力なリーダーシップを発揮し、自治会や関係機関と連携して防災訓練啓発活動を広く呼び掛け、危機感を持った新たな防災避難訓練を行うべきと思うが。

答弁 地域防災訓練支援事業は、自治会や自主防災組織が実際の発災時に有効活動が出来るように、地域の方々が一体となって行う実践的な訓練に対する補助制度で、地域の自主的防災訓練実施を促し、地域防災力の向上を図るうえで重要な施策と位置づけしている。

しかし、町内33自治会がある中で、毎年3割程度の実施状況では、小豆島町として適切な避難行動が出来るか、いささか不安な状況である。

その主な要因は、訓練方法の知識不足や地

域のリーダー不足等であり、今後地域リーダーの人材育成を考えている。

町、その他行政機関と自治会が連携協働して、より一層自助、共助による防災・減災につながる仕組みを構築し、防災対策に取り組む考えである。



馬木みつわ会避難訓練の様様

一般質問



森口 久士 議員

人・農地プランの状況は

町「他の自治体のやり方やモデル

事例も参考に取組んでいく」

念されるなど、非常に

深刻である。

人・農地プランを策

定しているが、実質化

には至っていない。

来年度からアンケー

ト調査を行い、現況を

把握するための地図を

作成していく。

町と農業委員会、農

協等の組織や農

地中間管理機構

が一体となり進

めていく必要が

ある。

他の自治体の

やり方やモデル

事例も参考に取

り組んでいく。

【答弁】

農地利用の最適

化を推進し、農業の振

興を図ることは、本町

の発展にとっても大変

重要である。しかし、

本町の農業は、従事者

の高齢化や担い手不

足、後継者不足による

耕作放棄地の増加が懸

【再質問】

現状の農業委

員会、農林水産課の職

員が不足しているの

で

は。

【答弁】

今後、適切な人

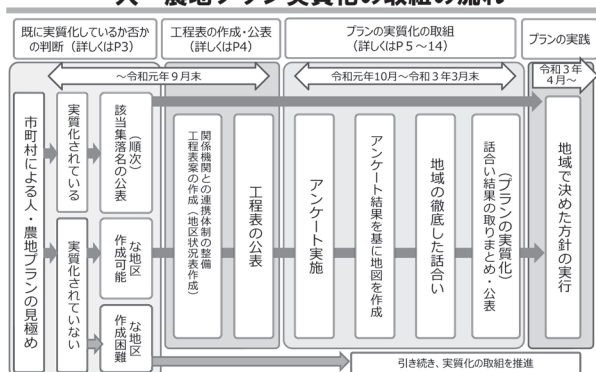
員配置に努めていき

たい。少なくとも今年度

当初の人員ぐらひは配

置していきたい。

人・農地プラン実質化の取組の流れ



柴田 初子 議員

寒霞溪の環境保全は

町「崩れた箇所を

早急に修繕したい」

保全や維持管理に係る

整備を実施することと

なった。本事業は、今

年度予定していること

から、文化庁等の許可

が得られ次第、寒霞溪

山頂の2カ所の展望地

を初めとして、登山道

入り口の通天窓を含む

数カ所の伐採や枝払い

を実施することとなっ

ている。

登山道のご指摘の箇

所については、崩れた

箇所を確認したので、

早急に修繕をしたいと

思っている。

今後については、関

係する団体からの情報

を得ることと、シーズ

ン前には点検を行うこ

とで、危険箇所の早期

発見と復旧を行ってま

いりたい。

【答弁】

寒霞溪における

景観の保全については、

毎年紅葉が始まる観光

シーズンを前に、小豆

島観光ボランティアガ

イドクラブなどの関係

団体と現地を調査した

上で、清掃や規制にか

からない程度の枝打ち

作業を実施している。

今年度については、

環境省四国事務所がグ

リーンワーカー事業の

一環として、寒霞溪の



崩れてしまった登山道

【答弁】 65歳以上の高齢者・1人暮らし世帯は約2400ある。今後7年間で高齢者数は減少するが、世帯は増加

ここ10年ほどで、老人福祉施設は非常に充実したが、なお、カバールしれない現実がある。見守りが必要な世帯の実態と現在の取り組み、今後の方向性は。

ここ1カ月の間に、高齢者世帯での孤独死等が2件発生している。1件は死後数日を経て発見され、もう1件は事情により救命への対応が遅延したためと考えられる。

【質問】 独居老人世帯等への見守り・安否確認の重要性が増しているように感じられる。



中松 和彦 議員

独居老人等の世帯への見守り支援は

町「緊急通報装置等の貸し出しや配食サービス時に確認している」



配食サービスの様子

高齢者の方に対しては、介護予防あるいは介護に必要な各種サービスの充実に向けている。サロン活動への支援であったり、老人会・地域ボランティアによる見守り活動のほか、緊急通報装置や見守り

タグを貸し出すなどの他、配食サービスなどにより安否確認を行っている。

来年度は介護保険事業計画、老人福祉計画の策定年度でもあり、住民の意見を反映し取り組んでいきたい。



三木 卓 議員

サン・オリーブ温泉の継続運営は正しいのか？正しくないのか？

町「財政に影響を及ぼさない限り、運営を継続させてまいりたい」

【質問】 ① サン・オリーブはどのような状態が理想的だと考え、目的を達成するためにどのような具体的な目標を設定しているのか？

② 目標の達成度はどれくらいか？

③ 平成27年度以降、毎年売上が下がっているが、何をしていないからこのような状態になっているのか？

④ 決算資料を見る限り、経費が分かりにくいが、温泉に関わる経費はいくらか？

単位：万円

	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
売上	9,396	8,763	8,851	9,236
レストラン	4,241	3,246	2,983	3,436
温泉	2,069	2,258	2,459	2,515
委託	2,500	2,500	2,500	2,500
使用料	270	295	272	271
その他	316	464	637	514

経費	12,525	12,721	12,030	12,471
燃料費	1,720	1,566	1,350	1,475
光熱水費	2,170	2,039	1,933	2,012
委託費	1,436	1,536	1,649	1,530
人件費	4,206	4,641	4,593	4,517
売上原価	1,425	1,063	944	1,540
その他	1,568	1,876	1,561	1,397

福利厚生費は(主に事業主負担の社会保険料)は人件費に含めています。

サン・オリーブの年度別収支状況

利益	-3,129	-3,958	-3,179	-3,235
----	--------	--------	--------	--------

【答弁】 ① 設置趣旨にある健康づくり、生きがいづくり、ふれあいづくり、に資することが施設運営の理想と考えている。

② 目標の達成度という尺度で測ることは難しい面がある。優良モデル道の駅として全国から選ばれたことは設置目的に沿った運営が

十分に評価されたものと考えている。

③ 国の補助がなくなつたことによる国保と後期高齢者の温浴教室事業の温泉入浴客数の減少や、海水浴客とオリベックス宿泊客に割引券を配布していなかった時期があるため。

④ 人件費を含めた経費は、重油価格の変動や修繕に関わる費用により多少増減するが、27年度から30年度までは、約5300万円で推移している。

⑤ 当時の執行部と議会が議論を尽くして開設した経緯もあることから、収支不足であることのみを理由に廃止することが最善とも言えない。まずは利用促進や経費削減に努め収支改善を図りたい。

増加一途の荒廃空き家、 空き地の今後の対応、対策は

町「空き家等対策計画の見直し、
今後さらなる取り組みを」



森 弘章 議員

【質問】 数年前、各自治会宛てに空き家調査があったが、結果と現況はどのようなになっているのか。

いまだ、壊れかかった空き家、伸び放題の庭木の道路や隣家の屋根に覆いかぶさる状況は、自治会など会合でよく話題となる。

平成29年度に策定した「空き家等対策計画」の進捗状況、また、具体的対策、対応はあるのか。

【答弁】 各自治会から提出いただいた空き家情報を基に現地調査、当時、2288戸の空き家の存在を確認した。

29年度から、空き家等対策計画を策定、空き家バンク等、各種施策に取り組んだ結果、空き家総数は、1973戸となっている。

指摘のあった周辺に悪影響を及ぼすと評価される物件は556戸で、所有者に対し空き家除去支援事業の活用を提案するなどの取り組みにより、これまでに、166戸の解体撤去が確認された。

今後の対策、対応については、いわゆる「空き家法」による勧告等、行政処分の権限は付与されたが、空き家の所有の権利、適正管理の義務は所有者にあることに変わりなく、生活環境の保全の観点から、適切で細やかな指導と、所有者の意志に沿った施策の投入に鋭意取り組む。

町内、歩道のない地域の国道436号、住民の安全対策は

町「国道整備制度改正に伴う国庫補助の最大限の活用を」

【質問】 国道436号について、市街地でありながら歩道がない危険な箇所が池田、安田地区をはじめ、何力所か見受けられる。

特に通勤、通学時のラッシュ時、大型車両の行き交う交差点近隣では自転車、歩行者の

危険で不便な未整備バス停の調査、対応を

町「安全、利便性の高揚は重要案件、今後も環境整備に努める」

【質問】 住民からの話で、子どもがバス通学を始めたが、最寄りのバス停に屋根や待合所のスペースがなく、当然駐輪場もなく、毎朝そのバス停へは1キロ近くを走って通っている。

通学時は車両も多く、特に雨天の日などは危険な思いをしていると聞いた。

日常生活の通院通学、

スペースはなく、高齢者を含め、交通弱者への対応が急がれる。今後の計画は。

【答弁】 国道で歩道の整備されてない区域があるのは十分に承知いたしているが用地交渉等、想定通りに進捗し

また、来訪者の増加等、臨時バスと書かれた車両もよく見かけるが、関連施設の整備は、不十分では。早期の調査、対応が望まれるが。

【答弁】 ご指摘の国道沿いの危険だと思われるバス停は安田上バス停のことと思われるが、毎朝学生が30人程度利用されており、歩道も、

ない場合もあるなか、かなりの部分、現在も工事を進めている。

集落のある区間で歩道のない箇所は、池田地区平木交差点周辺、内海地区旧役場跡北近隣、同、古郷地区、そして、岩谷、当浜、福田地区であるが、この

待合所のスペースもなく不自由で危険な箇所との認識はしている。

なお、駐輪場に関しては、旧内海庁舎跡地の有効活用を鑑み、将来的にバスを引きこむような国道改良ができれば、上下2つあるバス停を集約するとともに、屋根付き待合所、駐輪場設置など跡地の有効活用を合わせて行



安田上バス停の様子

いたいと考えている。今後においても、利用される方の安全や利便性を高めることは重要なことであり、指摘のバス停を初め環境整備に努める所存である。

度の、国の制度改正に伴う生活道路の安全対策に対しての、財政的支援が行われることで、より一層の工事の進捗が図れるものと思っている。

移動販売車「まごの手」の

実態と将来像は

町「今後も支援したい」



森 崇 議員

け新鮮食品、日用品、弁当など販売している。高齢者等への生活支援という観点から継続して支援したい。

呉市の視察は昨年7月の豪雨で大型スーパーが閉店したので本町の「まごの手」を視察に来たものである。

質問 「まごの手」が来るのを待っている年配の方の気持ちを町はどう思っておられるのか。また呉市から視察に大型バスで来たと聞いた。詳しく知りたい。

答弁 この事業は開始してから丸4年経過している。商店の閉店が続き、商工会からの申し出があり支援を決めた。移動販売車購入・車検代などの支援をしている。見守り機能を兼ね備えコミュニケーションの場にもなっている。事業概要は週4日、4つのコースに分



まごの手マーケット

戦争体験記の必要性は

町「町民の盛り上がりを

期待している」

質問 昨年の12月議会でも質問したが、小豆島町も戦争体験記を出版すべきだ。土庄町と

県の老人会は戦後70年で記念出版している。小豆島は二十四の瞳やオリーブで平和な島といわれているが、あの戦争から74年が過ぎ、

遺族の方も少なくなっている。映画村で二十四の瞳の紙芝居をしている時イギリスで先生

をしていた「ゴードン」さんが知っておられ、この小説は世界的だと思っ

た。小豆島町で撮影された映画「明日へ」の上映にも取り組んだ。

自民党古賀元国會議員が「憲法9条には戦争遺族の血と汗と涙が込められている。戦後不戦を貫いた9条の力は世界遺産だ」との本

を出版した。

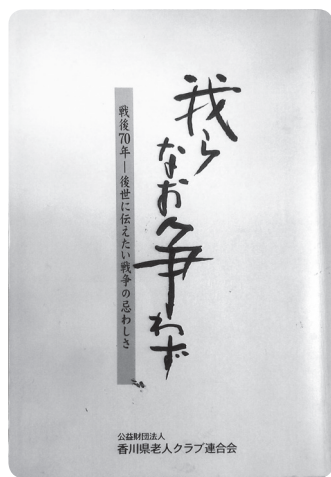
来年は戦後75年になる。町の考え方を再度お聞きする。

答弁 戦争時に生まれてなくとも語り継ぐ必要性は重要であり、風化させてはならない。

戦争体験記は町民の機運が高まれば、検討してまいりたい。

町としても様々な機会を通じて、平和の小豆島に関する取り組みを引き続き行っていく。

我らなぞ争わず



我らなぞ争わず
(香川県老人クラブ連合会発行)

猪急増の対策は

町「関係機関と

取り組んでいく」

質問 10年ほど前に年間8頭の猪の捕獲が今は1500頭以上の捕獲だと思

う。木庄地区も4年間かけ柵で2・7km、地区を囲み延べ500人の方の協力があ

った。先日はサン・オリーブで観光客が猪に襲

われた。また東かがわ市では里山絶品猪料理が新聞で紹介された。

町は猪対策をどう考えているのか。

答弁 鳥獣被害は農林業のみならず住民の安全な生活を守る意味からも大きな社会問題であり、年間6500万円を超える予算措置をしている。各自治会にも取り組みの違いがあるので研修会を検討している。

有害鳥獣により崩された農道や水路など農業用公共施設の被害復旧経費について、補助できないか検討している。

後期高齢者医療制度に

おける人間ドックは

町「できる限り事業を継続したい」



安井 信之 議員

町が助成している人間ドックを実施している医療機関は、小豆島中央病院と牟礼病院である。したがって、人間ドックの助成は小豆島中央病院の経営にも役に立っている。

質問 国の人間ドック事業の補助金が令和3年度をもって終了するが、小豆島中央病院の利用促進も考えて継続すべきではないか。

答弁 健康寿命の延伸、医療費の抑制という観点から、人間ドックの意義は高いと考えている。

これまでどおりの助成は困難だが、自己負担額の見直し等により、できる限り事業を継続したい。

事務局内の案だが、来年度は3割程度は自己負担で考えている。



小豆島中央病院

異常気象に対する減災対策を

町「地元負担金を軽減する方向で進めたい」

質問 異常気象に対する減災対策について土砂災害特別警戒区域の方のみならず減災に取り組みやすい施策を行うべきではないか。

答弁 生命、財産を守

るための対策としての急傾斜地崩壊対策事業で、補助残の地元負担金を軽減する方向で進めたいと考えている。

崩壊を防止する対策工事が重要で、地域の方がみずから減災に取

り組みやすい施策という意味でも、利用促進のための見直しが必要である。

国庫補助事業は補助率が、町が5%から20%、残りを県と国が半分ずつ負担で、地元

分担金はゼロである。県費補助事業は補助率が、県が50%、町が20%、地元負担が30%となっている。

小学校再編の議論のスピードアップを

町「いつまでという期限を設けず、じっくりと検討したい」

質問 校舎建設後60年経過している苗羽小学校をはじめ、旧内海町内の小学校の校舎が老朽化しており、小学校の在り方について早急に決断しなければなら

ないのではないか。検討期間は、現在の状況に至った経緯も踏まえ、いつまでという期限を設けず、じっくりと検討したい。施設が老朽化していると想定した中での期限を切らないということでご

理解いただきたい。県立の特別支援学校が池田小学校に併設され、池田小学校を当分の間存続させるということは、段階的に統合を進めるという前提が大きく変わるものと考え

る。将来的に池田小学校を統合しない場合でも、内海地区の小学校の統合を進めるか、それとも4校を維持していくかについて、町内

答弁 統合ありきではなく、小豆島の宝である子供たちがどういった環境で教育を受けべきかという原点に立ち戻って、じっくり検

討していきたい。総合教育会議は、2月上旬に開催する方向で調整中で、これからの学校のあり方について表現の修正を提案したいと考えている。

検討期間は、現在の状況に至った経緯も踏まえ、いつまでという期限を設けず、じっくりと検討したい。施設が老朽化していると想定した中での期限を切らないということでご



築60年経過した苗羽小学校

の子供たちが学ぶ環境で差が生じないよう検討を行いたい。

認知症支援施策の充実を

町「認知症カフェ来年度設置へ」



鍋谷真由美 議員

る体制づくり、さらに一般町民からの相談を受け付ける体制も必要ではないか。

【答弁】 地域での担い手の育成、認知症理解の普及啓発、医療機関との連携などを進めている。施策の充実は来年度の第8期介護保険事業計画策定の中で検討したい。来年度には認知症カフェが設置でき

とが求められている。先日研修に行った笠岡市の取り組みなども参考にして、施策の充実を求める。

特に、認知症高齢者とその家族などが交流を図る認知症カフェ、認知症の当事者が相談に応じる取り組み、早期認知症を発見するための民間団体と連携す



認知症サポート養成講座

るよう準備している。

6月に県警本部と協定を締結し、認知機能の低下が理由の運転免許の取り消しや自主返納した高齢者等の情報提供を受け、支援にっ

なげていく。高齢者福祉課地域包括支援センターで4人の認知症地域推進員の資格を持つ職員が相談を受けている。

高齢者等へのごみ出し支援を

町「戸別収集は考えていない」

【質問】 身体機能や認知機能の低下によって、ごみ出しが困難になっ

た高齢者の支援が課題となっているなか、地方自治体が自宅まで直接出向いてごみの回収を行う事業に対し、国が経費の半額を交付すると報道された。

本町でもボランティアなどではごみ出しが行われているが、町の責任で支援制度を実施してもらいたい。

【答弁】 軽度家事支援サービス、ボランティアによる支援の充実などに取り組み、今年度は

地球温暖化対策の取り組みは

町「公共施設での省エネ対策を行っている」

【質問】 地球規模での気候変動はきわめて深刻だ。猛暑や大規模水害

につながる異常気象が続くのも、温暖化の影響だと指摘されており、この影響を防ぐには、産業と家庭の両分野にわたり、新たな温暖化対策の国際ルールであるパリ協定を踏まえた環境対策を一層強

化していく必要がある。町長の見解は。

また、小豆島町環境保全率先実行計画策定後の取り組みは。

【答弁】 公共施設等を対象とした事務事業編のみを策定、電気自動車の導入、庁舎照明のLED化、省エネルギー行動としてのクールビズなどを実践、今後も温室効果ガスの削減に向けた取り組みを継続する。

地域住民や事業者が中心となる取り組みを定める区域施策編は、任意であり、土庄町と策定の是非を含めた検討協議をしている。



電気自動車の公用車

神懸線季節運休の廃止を

町「各種支援事業で対応」



大川 新也 議員

質問 オリーブバス神懸線が毎年12月から3月まで季節運休となる。当然、神懸線は観光路線であるが、生活路線でもある。

過去にタクシーバスの実証実験を行った。当時利用者が皆無だったが、路線沿線も年々高齢者・免許返納者（交通弱者）も増えてきている。そこで季節運休の廃止を考えられないか。

- ①意向アンケート調査の考えは。
②交通弱者への対応は。
③下り便時刻の見直しは行えないか。
④バスの収支状況は。

神懸線	バス
04	04
44	44
09	09
14	14
19	19
20	20
25	25
30	30
35	35
40	40
45	45
50	50
55	55
60	60
65	65
70	70
75	75
80	80
85	85
90	90
95	95
100	100

季節運休中の神懸線

⑤バスへの要望・課題等の受付窓口は。

答弁 ①アンケート調査は行わず、現状では地域資源であるタク

シー活用での対応。

②バスの通年運行につ

いては、町、バス、タ

クシー、ロープウェイ

の関係者で今後協議を

行う。交通弱者へはタ

クシーチケットを支給

する等各種支援事業で

対応。

③南回り線等他路線と

の連絡もあり難しい。

④年間経常利益は約

700万円。

⑤窓口は企画財政課。

リサイクル関連事業の計画は

町「基本計画に基づく実施を考えている」

実施を考えている」

質問 先月丸山に新たな施設「エコプラザ小豆島」が竣工された

と聞いた。

また土庄町長が議

会で「令和5年ぐら

いに中間処理施設をやる予

定」と答弁があった。

①新規施設の詳細は。

②土庄町長の答弁に

関しては。

③リサイクル関連事業

は計画されているのか。

④土庄町長の答弁に

関しては。

⑤リサイクル関連事業

は計画されているのか。

⑥土庄町長の答弁に

関しては。

⑦リサイクル関連事業

は計画されているのか。

⑧土庄町長の答弁に

関しては。

⑨リサイクル関連事業

は計画されているのか。

⑩土庄町長の答弁に

関しては。

⑪リサイクル関連事業

は計画されているのか。

⑫土庄町長の答弁に

関しては。



新設されたエコプラザ小豆島

スポーツ事業の新たな取り組みを

町「五輪を機に新たな事業を検討」

事業を検討」

質問 東京五輪を来年に控え、これを機に新たなスポーツ事業に取

り組む考えはないのか。

①土庄町では五輪ホ

ストタウン、スポー

ツクラブ設立等新たな取

組みを実施している。

確かに運営経費等の問

題もあるが、夢とか希

望の持てる試みが必要

では。

②スポーツ施設の充実、

新設などの考えはない

のか。

③土庄町長の答弁に

関しては。

④スポーツ施設の新設

は計画されているのか。

⑤土庄町長の答弁に

関しては。

⑥スポーツ施設の新設

は計画されているのか。

⑦土庄町長の答弁に

関しては。

⑧スポーツ施設の新設

は計画されているのか。

⑨土庄町長の答弁に

関しては。

⑩スポーツ施設の新設

は計画されているのか。



利用が待たれる旧小高新高体育館

視察研修報告

令和元年10月29日・30日に、岡山県笠岡市、広島県府中市・尾道市で視察研修を行いました。

岡山県笠岡市

『耕作放棄地対策について』

国の施策、ふるさと納税や農業委員の活動を通じて、耕作放棄地が発生しないように努めている。

また、耕作放棄地を解消させる取り組みとして、各種団体が地域資源を活用した特産品の開発や体験活動を行っているっており、観光客の誘致や地域の課題解決・活性化につながっている。

＜研修を終えて＞

地域を守るといいたいから、地域をあげて様々なことに取り組んだことが地域の活性化につながっている。本町においても地域をあげて取り組む必要があるのではないかと改めて感じた。

『事業承継支援事業補助金について』

従業員を抱える製造業の廃業が増加する懸念があったため、家族以外への事業承継を支援する目的で補助制度を導入した。

現在までの事業実績は1件で、新聞販売店の承継であった。課題としては、事業者からの廃業の相談を受けるケースが少なく、専門機関に直接相談するケースが多いとのことであった。

＜研修を終えて＞

本町ではほとんどが家族経営であり、制度に該当する企業が少ないと思われる。雇用の場を確保する観点からは、企業の撤退・廃業等は避けたいことであり、何らかの形で支援する必要があると感じた。

『高齢者福祉計画について』

「ゲンキプラン21」を策定し、めざす地域包括ケアシステムの姿を、おおむね在宅、時々入院いつでも支える医療と介護」としている。

特に、認知症施策として、おれんじドアの実施、民間団体と連携してのMCI（早期認知症）の発見や脳トレの実施で重度化予防対策を行っている。

また、島しょ部では、介護予防として、交流活動事業等への支援や、生活支援として、高齢者協同生活住居の整備などを行っている。

＜研修を終えて＞

認知症施策や島しょ部で実施している高齢者共同生活住居など先進的な取り組みについては参考にしたいと感じた。特に認知症について、認知症専門病院の協力を得ているとのことだった。本町にも、小豆島病院があり、認知

症予防の取り組みなど、今以上に相談、協力して取り組む必要があると感じた。

広島県府中市

『小中一貫教育について』

全国に先駆けて小中一貫教育を導入した。

小中一貫教育とコミュニティスクールとの2つの柱がある。

小中一貫教育には、①小学校と中学校が同じ敷地にある一体型。

②隣接しているか、離れているが同じ中学に進学する併用型。

③小学校と中学校が離れている連携型。

の3つの形態がある。教育課程の特例として、

①6・3制を4・3・2制に変更。

②小学校5年生より50分授業。

③新教科をつくる。の3つを実施している。

コミュニティスクールとして、

①地域を学ぶことが郷土愛の原点となる。

②地域に貢献すること

で教育が豊かに、地域が元気になる。

③地域のひと・もの・ことを生かして学習をつくる。

④地域の人と一緒に学び魅力を再発見する。と4つの点を大切にしている。

＜研修を終えて＞

小豆島町でも小中学校の連携を計り、一貫した方針で教育を行っている。府中市での研修を小豆島町でも参考として、より良い教育を目指したい。

広島県尾道市

『日本遺産について』

尾道市は3つの日本遺産認定を受けている。

平成16年から歴史的なまちづくりを目指し

建造物や町並みの調査を始め、景観の保全に取り組んできた。平成

20年に「文化財総合的把握モデル事業」を実施。平成24年には「尾

道市歴史的風致維持向上計画」が国の認可を受け、文化財及び周辺

整備を行ってきた。

認定後の取り組みは情報発信、施設等の整備、シンポジウム開催、人材育成等、多岐にわたっている。

今後とも、「日本遺産」として歴史ある文化財等の整備・保護に取り組み、総合的なまちづくりをさらに前進させていくとのことであった。

＜研修を終えて＞

地域の歴史文化に合わせて制度へ取り組んだ結果、認定に至ったという点で感心させられる。

我が町でも、取り組みが開始されているが目標・目的を明確にし、多くの人に理解を頂き、今後のまちづくりへつなげていければと思う。



研修中の様子



ぬくもりある住みよい 西蒲生地区

佃 洋

(西蒲生自治会 会長)

西蒲生地区は、小豆島町の西側に位置し、98世帯、240人が暮しています。

旧蒲生小学校跡には、小豆島こどもセンター、東側にはコンビニエンスストア、小豆島中央高校があります。

池田港・土庄港・小豆島中央病院にも近く、隣の土庄町を生活圏として、小豆島の中でも非常に利便性に富んでおり、災害にも強い地区です。

高齢化が進む中で中学生以下の子供は27人と地区人口に占める割合は多い方です。

地区内行事としては2月に西友会中心の厄払

い餅つきがあり、全世帯に配布しています。7月には弁天祭り、10月には亀山八幡宮の太鼓台奉納の秋祭りと平成30年に建替えた自治会館を核とし、地域一体となった地域活動、また、公民館との共催で多数の参加者でカラーリング大会、演芸大会も実施しています。

今後も、地区住民の方々、各種団体の協力を得て、これまで以上に住みよい地区を目指し自治会運営に取り組んでいきます。



西蒲生地区の様子

議会を傍聴しませんか。

次回定例会の予定は 3月上旬 です。

まじの力 池田ファイターズ

池田ファイターズは9月に2人の6年生からバトンを引き継ぎ現在2年生から5年生の12人で活動している少年野球チームです。練習は週4回火、木曜日放課後、土、日曜日午前中に池田小学校の運動場でしています。

チームは今年創設44年目となりましたが、これまで

築き上げられたファイターズを受け継いで部員、保護者共に日々野球を楽しみながら練習しています。

指導方針は松岡亨治監督のモットー「礼儀作法をしつかり」という考えのもと、指導陣、保護者、これ

までファイターズに携わっていたOBの方々と三者一体で技術面、精神面共に指導しています。

チームはここ近年なかなか勝ち星に恵まれていま

んでしたが前年度の夏の県大会で6年生の部、5年生の部共にベスト16と輝かしい結果を残しました。勝つことがすべてではありませんが部員たちはこの大会を通じて野球の面白さや楽しさを再確認し、今年はベスト8以上という目標で日々の練習を一生懸命頑張っています。

最後に少しでも野球に興味がある方はいつでも見学、体験にお越しください。未来のファイターズナインを大募集中です。ご連絡お待ちしています。

代表者 佐伯 翼

☎090-4507-6384



編集後記

二度目の編集後記となります。

議員一人一人の考え方が個々違います。同じ質問でも期待する答弁は、それぞれ異なっています。各自に質問答弁を整理し、編集委員会に提出してもらいますが、微妙に執行部の答弁が自分の期待する答弁になる場合があります。これをチェックするのが編集委員会だと考えています。

藤本傳夫 記



本紙に対する
お問い合わせは

■発行 小豆島町議会 ■編集 小豆島町議会広報編集特別委員会

〒761-4492 香川県小豆郡小豆島町片城甲44-95 TEL(0879)82-7060 FAX(0879)82-7061
E-mail olive-gikai@town.shodoshima.lg.jp